


[ニュース](#) > [社会](#)

人工心肺のチューブ逆向きに装着、両手足に後遺症...久留米大病院医師ら書類送検

2022/02/21 13:55

 この記事をスクラップする

久留米大学病院（福岡県久留米市）で2018年5月、心臓手術を受けた70歳の男性に医療ミスで後遺症を負わせたとして、福岡県警は21日、手術を当時担当した医師ら3人を業務上過失傷害の疑いで福岡地検久留米支部に書類送検した。



久留米大病院

県警によると、書類送検されたのは、男性医師（64）と、男性臨床工学技士の2人（46歳と36歳）。

3人は18年5月16日、男性に心臓の手術をした際、人工心肺装置のポンプにつなぐチューブを逆向きに装着。誤って大動脈の血液内に空気が送り込まれて低酸素脳症を起こし、男性の両手足に機能障害を負わせた疑いが持たれている。県警は認否を明らかにしていない。

19年9月、男性の親族から県警久留米署に相談があり、県警が捜査していた。

あわせて読みたい

- ▶ JR東「脱線を完全に防ぐのはかなり難しい」...営業運転中の新幹線脱線、鉄道史上2度目
- ▶ 東北新幹線全線再開は4月以降か...宮城・福島地震、3人死亡200人以上負傷
- ▶ 岩手沖で遊漁船が転覆、大学教授ら3人が死亡...ホヤ養殖施設での研究のため出港中
- ▶ 「働かずに稼ぎたい」と県内外で窃盗行脚、保釈中に福祉の仕事で弁償の意向...猶予判決に

無断転載・複製を禁じます

 この記事をスクラップする  使い方